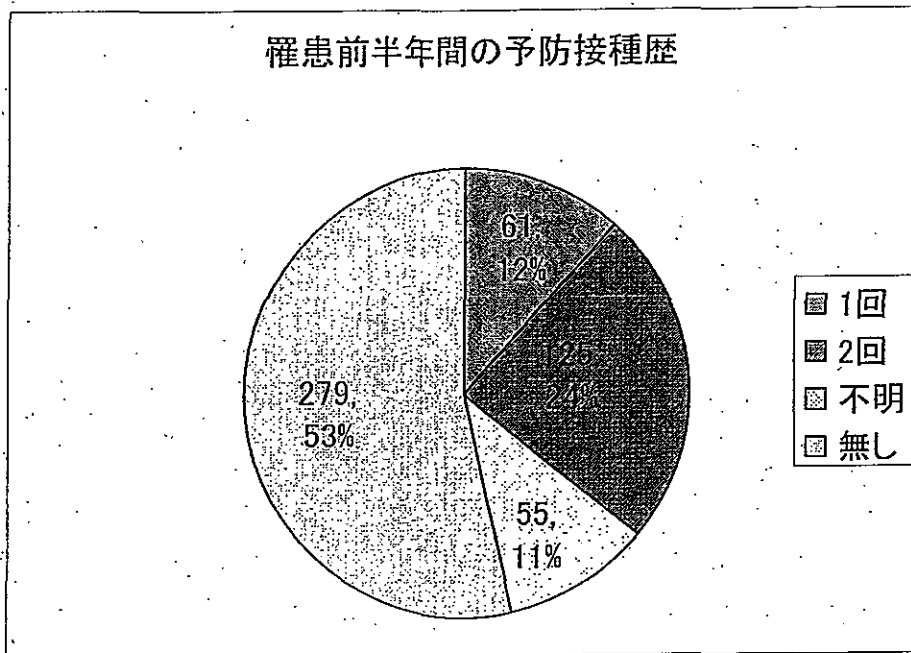


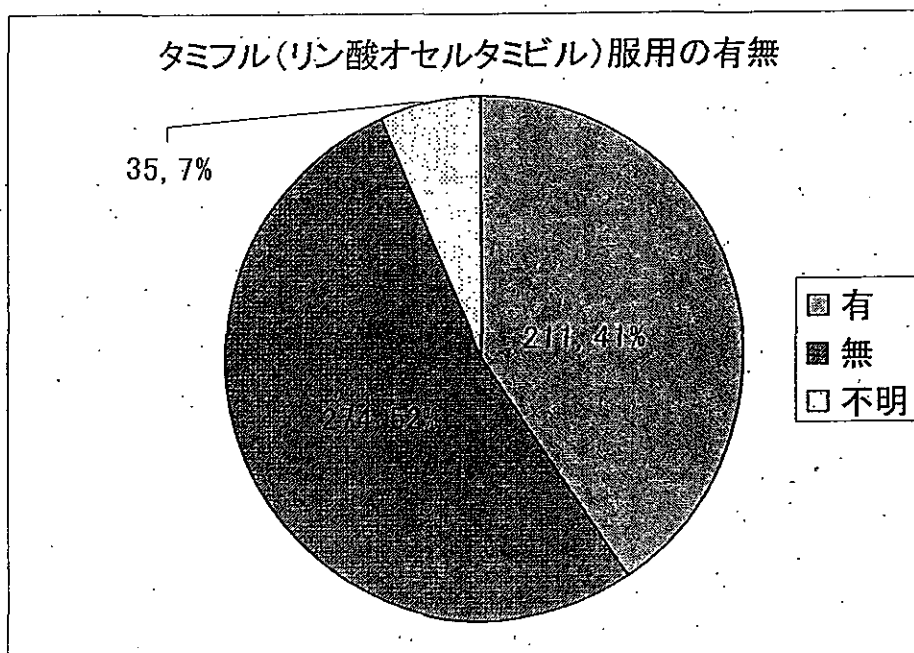
図61.罹患前半半年間の予防接種歴

n=520



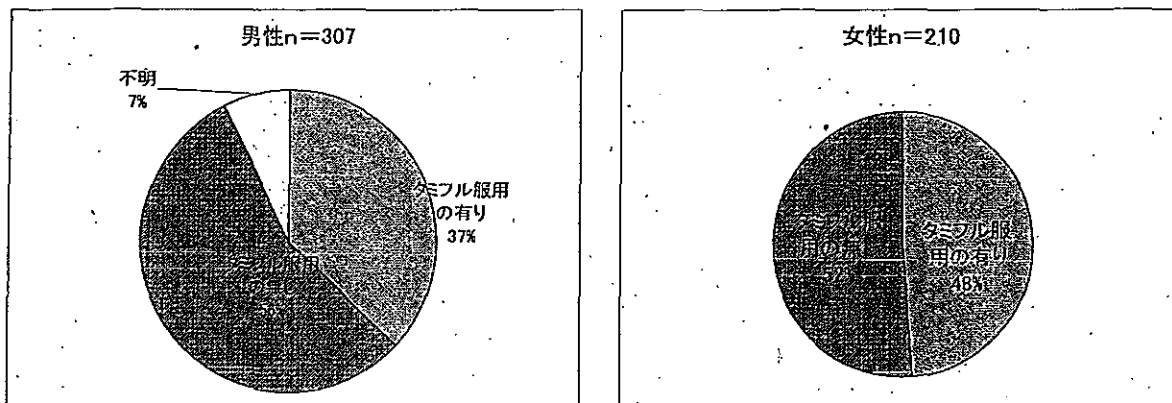
75

図62.タミフル（リン酸オセルタミビル）服用の有無n=520



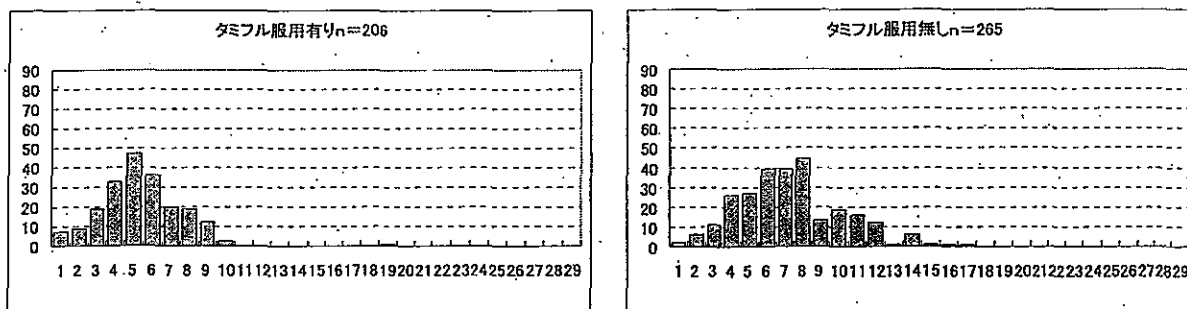
76

図63.タミフル（リン酸オセルタミビル）服用の有無の性別



77

図64.タミフル（リン酸オセルタミビル）服用の有無の年齢別

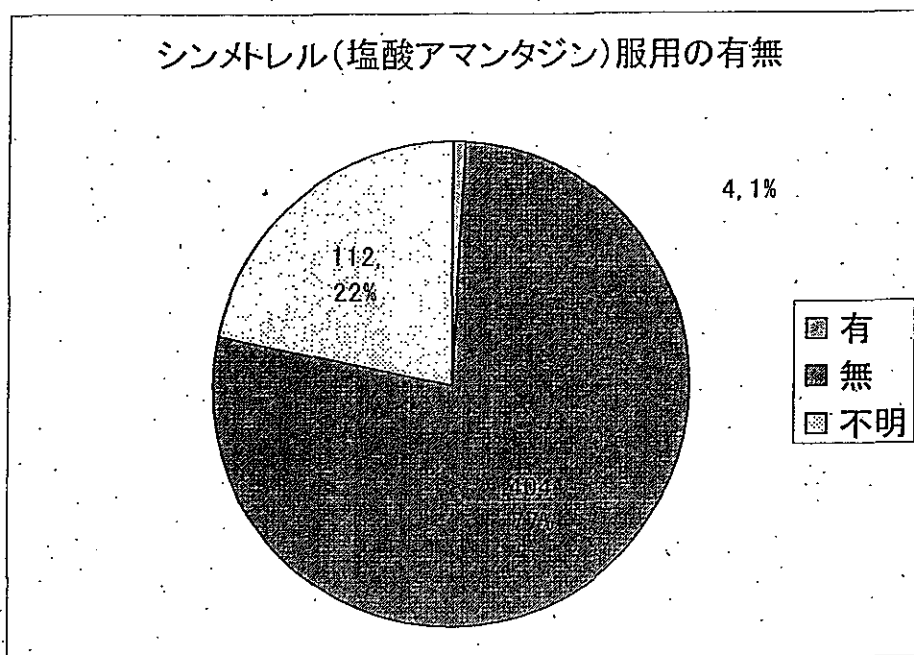


平均値5.40
中央値5

平均値7.26
中央値7

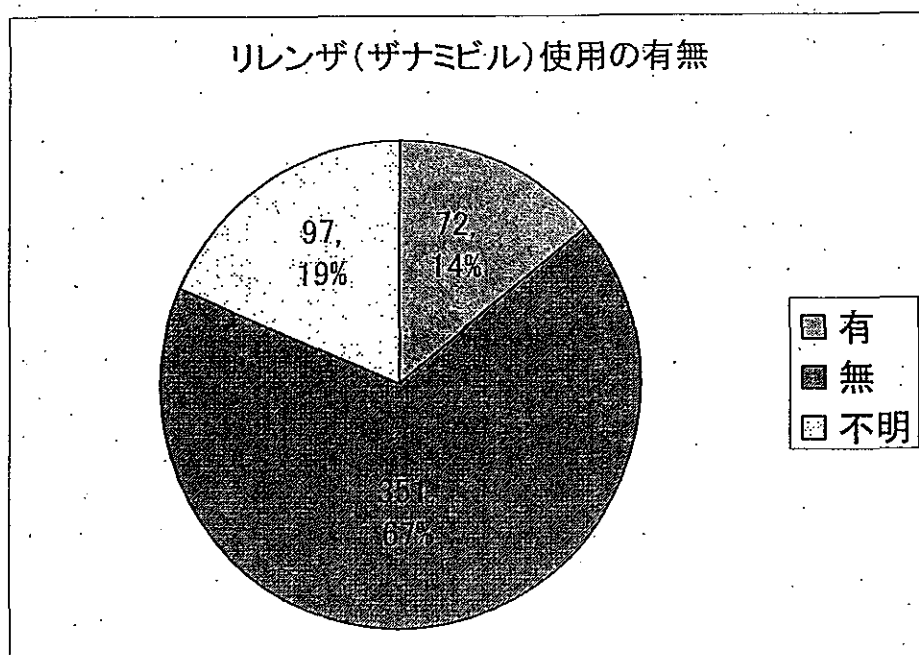
78

図65. シンメトレル（塩酸アマンタジン）服用の有無n=520



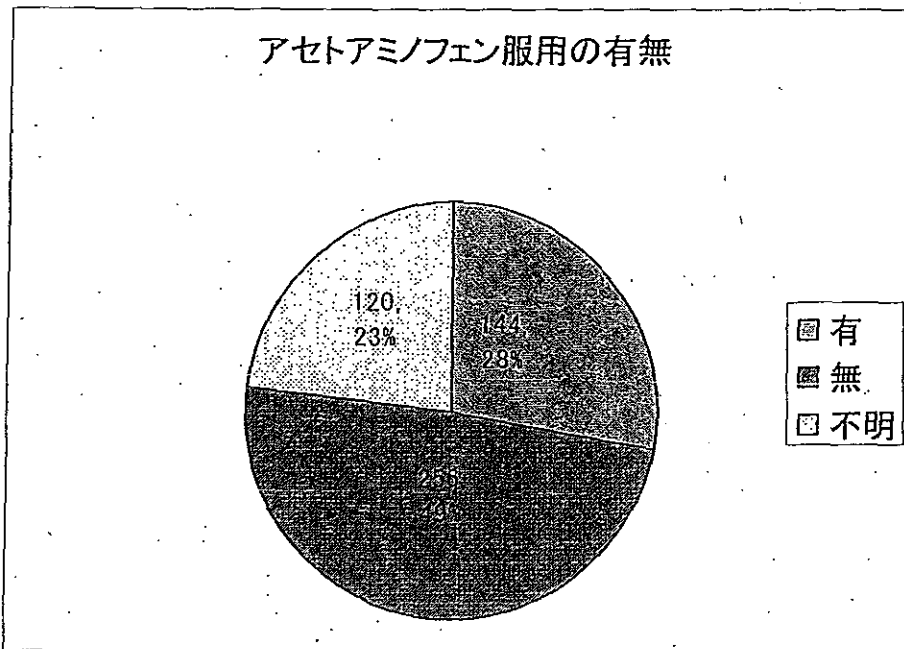
79

図66. リレンザ（ザナミビル）使用の有無n=520



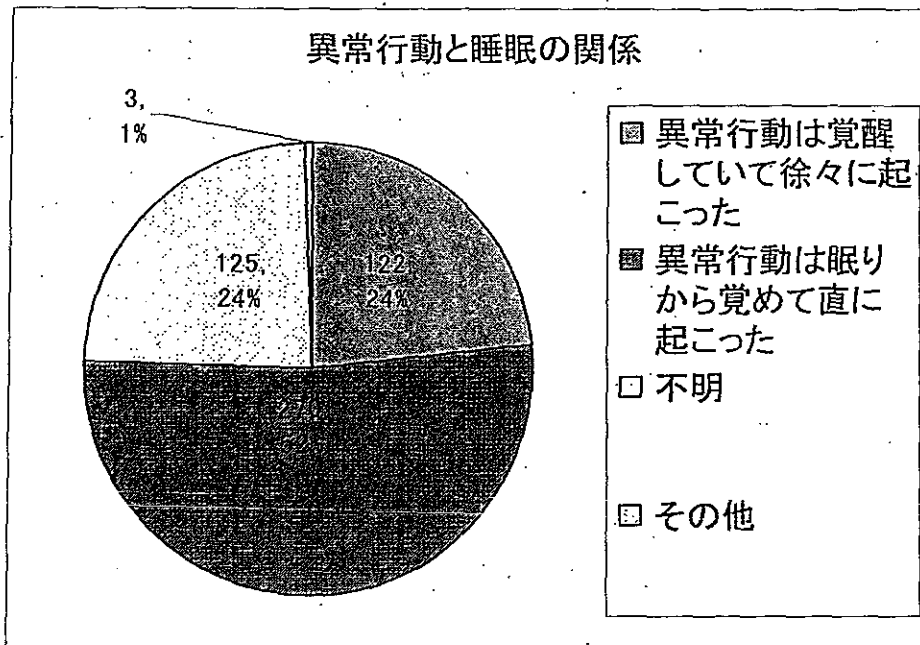
80

図67.アセトアミノフェン服用の有無n=520



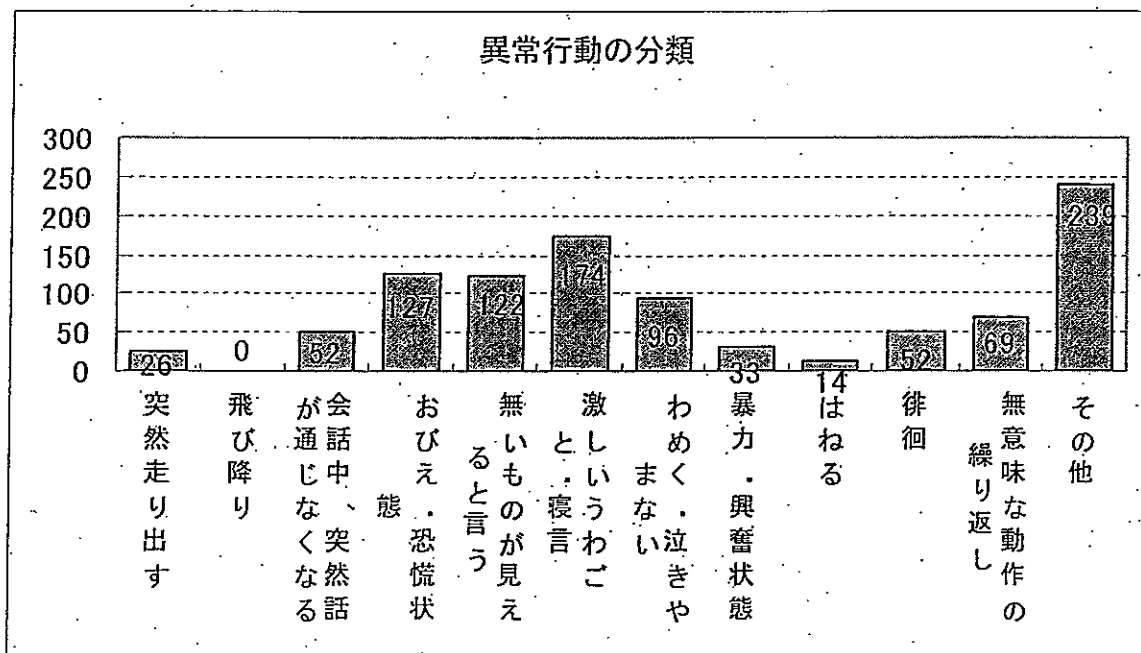
81

図68.異常行動と睡眠の関係n=520



82

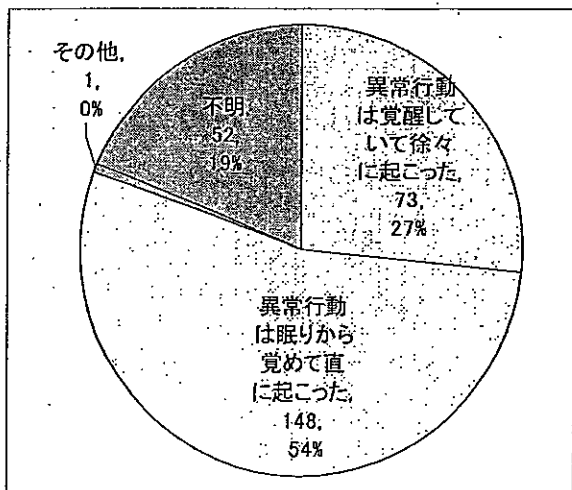
図69.異常行動の分類（複数回答）



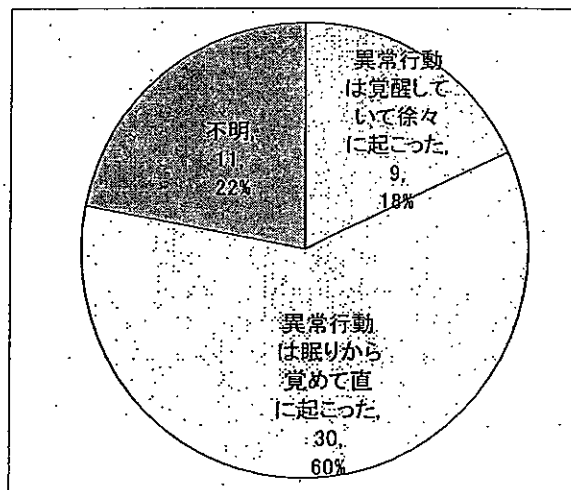
83

図70.タミフル有無と異常行動と睡眠の関係

タミフル服用有り群



タミフル服用無し群



84

まとめ

- 2007/2008シーズンは、昨シーズンに比べ発生動向調査によるインフルエンザ様疾患患者報告数が少なかった。
 - 昨シーズンに比べ、患者の年齢別にみると、0-4歳、5-9歳の割合が多かった。
- 重度の異常行動は、平均8歳、男性に多く、発熱後2日以内の発現が多かった。
- 薬剤服用の割合は、タミフルの服用は31%、リレンザは14%、アセトアミノフェンは43%だった。
 - 10歳以上は全てタミフル服用なしだった。
- 睡眠との関係は、眠りから覚めて直ぐに起こったものが多かった。
- 昨シーズンと比べると、薬剤服用の割合に違いがみられたが、性別や異常行動の分類別の割合では殆ど違いは見られなかった。

85

参考資料

年齢群別異常行動発現率の経年比較

86

昨シーズン通知前との比較 (重度)

発現率(%)	2007/3/20 以前	2007/2008	発現率の 比	95%信頼区間	
				下限	上限
10歳未満	0.00126	0.00163	.7705	.5050	1.175
10代	0.00220	0.00234	.9408	.5830	1.518

注: 発現率の分母は年齢区分別の発生動向調査からの推定患者数

87

昨シーズン通知後との比較 (重度)

発現率(%)	2007/3/20 以前	2007/2008	発現率の 比	95%信頼区間	
				下限	上限
10歳未満	0.00157	0.00163	.9641	.5544	1.676
10代	0.00346	0.00234	1.481	.8083	2.715

88

昨シーズン通知前との比較 (走り出し、飛び降りのみ)

発現率(%)	2007/3/20 以前	2007/2008	発現率の 比	95%信頼区間	
				下限	上限
10歳未満	0.000742	0.000748	.9914	.5526	1.778
10代	0.00129	0.00140	.9224	.4963	1.714

89

昨シーズン通知後との比較 (走り出し、飛び降りのみ)

発現率(%)	2007/3/20 以前	2007/2008	発現率の 比	95%信頼区間	
				下限	上限
10歳未満	0.000556	0.000748	.7424	.3010	1.830
10代	0.00115	0.00140	.8230	.3193	2.121

90